



Raise Up “Daido Spirit”



大同メタル工業株式会社

株主のみなさまへ

第111期 中間報告書

2018年4月1日～2018年9月30日

証券コード 7245

CONTENTS

株主の皆様へ	1
連結決算ハイライト(前年同四半期比)	1
営業のご報告	2
中期経営計画 Raise Up “Daido Spirit”(2018～2023)	3
2019年3月期 通期業績予想	4
配当について	4
事業セグメント別概要(事業内容・売上高構成比)	5
TOPICS	6
決算の状況(連結)	7
業績の推移(連結)	8
企業情報	9
会社概要／役員	9
株式事項／グローバルネットワーク(主な拠点)	10
株主メモ	11
株式に関する諸手続のご案内	11

代表取締役会長
兼最高経営責任者

判治誠吾

代表取締役社長
兼最高執行責任者

櫻山恒太郎

連結決算ハイライト(前年同四半期比)

1 2019年3月期第2四半期(累計)決算概要

単位: 百万円 (百万円未満切捨て、比率は表示単位未満四捨五入)

連結業績	【前期】 2018年3月期 第2四半期	【当期】 2019年3月期 第2四半期	前年同四半期比	
			増減額	増減率
売上高	51,085	53,822	2,736	5.4%
営業利益 (同利益率)	2,195 (4.3%)	3,529 (6.6%)	1,334	60.8%
経常利益 (同利益率)	2,252 (4.4%)	3,541 (6.6%)	1,289	57.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (同利益率)	757 (1.5%)	2,098 (3.9%)	1,341	177.1%
為替レート (1USドル/円)	112.00	110.54	左記為替レートは 各期6月末TTMレート	
為替レート (1ユーロ/円)	127.97	127.91		

売上高

前年同四半期比27.3億円(+5.4%)の増収。

◀国内> 前年同四半期比14.9億円(+6.3%)の増収。

自動車関連は、国内自動車生産台数が前年同四半期比微減の状況の中、自動車用エンジン軸受やターボチャージャー用軸受などが伸長し増収。建設機械向け軸受販売は中国・米国などの好調により増収となり、船舶向け軸受販売も増加した。

◀海外> 前年同四半期比12.4億円(+4.6%)の増収。

自動車関連が総じて堅調に推移し、建設機械関連も増加して、アジア・北米・欧州(ロシア含む)と海外の所在地別売上高も全て増収となった。

利益

前年同四半期に生じていた買収2社に関連する一時的な費用が無くなったことやメキシコの工場の増産に伴うコスト増要因の大幅減などにより、営業利益は35.2億円と前年同四半期に比べ13.3億円の増益となり、経常利益は35.4億円と同12.8億円の増益となった。親会社株主に帰属する四半期純利益は20.9億円と同13.4億円の増益となった。

2 所在地別 売上高・営業損益

国内 前年同四半期比の売上高増減率は+6.3%。

《自動車関連》国内自動車生産台数が前年同四半期比微減の状況の中、自動車用エンジン軸受やターボチャージャー用軸受などが増加した。

《建設機械向け》建設機械向け軸受販売が輸出を含めて増加した。

《船舶向け》大型船舶向け低速ディーゼルエンジン用軸受及び中小型船舶など向けの中高速ディーゼルエンジン用軸受が増加し、当社の受注は復調傾向。

《一般産業向け》エネルギーシフトを受けて、石炭・石油火力発電設備用特殊軸受が減少したが、再生可能エネルギー向けは堅調だった。

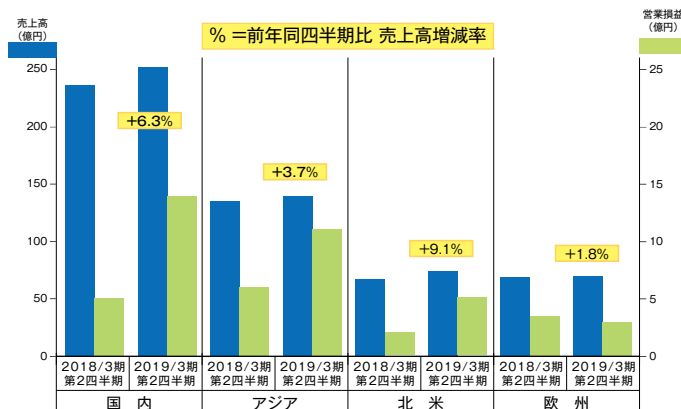
営業損益は、前年同四半期に発生した買収2社に係る一時的な費用が無くなったことなどにより増益となった。

海外 (12月決算の会社については1～6月の累計)

【アジア】前年同四半期比の売上高増減率は+3.7%。自動車関連では中国やタイが増加したが、韓国・インドネシアなどが減少した。営業損益は前年同四半期に発生した一時的な費用が無くなったことなどにより増益となった。

【北米】前年同四半期比の売上高増減率は+9.1%。米国の新車販売台数が引き続き高水準であったこと、北米での新規開拓が進んだことなどにより自動車関連売上高が増加した。また、建設機械分野の好調も寄与した。営業損益も前年同四半期のメキシコの工場の増産に伴うコスト増要因が解消し増益となった。

【欧州】前年同四半期比の売上高増減率は+1.8%。欧州(ロシアを含む)では、自動車関連を中心に全般的に底堅く推移し、売上高は増加した。営業損益は、ドイツの研究開発拠点及び営業拠点の費用増加などにより減益となった。



❖ 主要財務指標

	2016/3末	2017/3末	2018/3末	2018/9末	2018/3末比
自己資本当期純利益率 (ROE)	9.0%	5.9%	6.9%	*7.9%	+1.0P
自己資本比率	35.8%	29.1%	30.6%	34.4%	+3.8P
純有利子負債 (有利子負債－現預金)	23,237	49,108	52,129	41,539	△10,589

* ROEは、親会社株主に帰属する四半期純利益を年換算し算出しております。

株主・投資家の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2019年3月期第2四半期(累計)における営業の概要についてご報告申し上げます。

当社グループの当第2四半期連結累計期間における業績につきましては、自動車産業関連は総じて堅調な結果となり、当社グループの売上高は増加いたしました。また、非自動車分野における船舶向け売上高は長く低迷しておりましたが増加に転じ、旺盛な外需に支えられた建設機械向け売上高も増加いたしました。一般産業分野につきましても概ね堅調に推移した結果、売上高は、538億22百万円と前年同四半期に比べ27億36百万円(+5.4%)の増収となりました。

利益面につきましては、販売費及び一般管理費の減少に加え、メキシコの工場の増産に伴うコスト増要因の解消や、前年同四半期に計上された買収2社に関する一時的な費用が無くなったこともあり、営業利益は、35億29百万円と前年同四半期に比べ13億34百万円(+60.8%)の増益となりました。また、経常利益も35億41百万円と同12億89百万円(+57.2%)の増益となり、親会社株主に帰属する四半期純利益も20億98百万円と同13億41百万円(+177.1%)の増益となりました。

当社は、2018年度から2023年度までの中期経営計画「Raise Up “Daido Spirit” ～Ambitious, Innovative, Challenging～」(“大同スピリット”を更なる高みに引き上

げ、大きな飛躍を果たす～高い志、改革する意欲、挑戦する心～)をスタートし、持続的な成長及び企業価値の向上に向けて、①既存事業の磨き上げ②新規事業の創出・育成③強固な基盤の確立④組織・コミュニケーションの活性化を4本の柱として掲げております。

本年9月には、当該中期計画の達成に向けた成長資金の調達及び財務基盤の強化を主な目的として、新株式の発行及び自己株式の処分を行いました。調達資金については、既存事業である自動車用エンジン軸受の生産能力拡大や効率化のための設備投資資金並びに新規事業分野での成長基盤の構築に向けた、電動化自動車に使用するアルミダイカスト製品の製造工場新設及び風力発電用特殊軸受の新会社(欧州)の設立、製造工場新設にかかる子会社への投融資資金等に充当する予定であります。

既存事業分野での揺るぎない地位の確立に加え、自動車の来るべきパラダイムシフト(エンジンからモーターへ)に的確に対応することで、当社グループの更なる発展を遂げるために、これらの投資を確実に遂行してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年12月

Raise Up “Daido Spirit”

～Ambitious, Innovative, Challenging～

“大同スピリット”を更なる高みに引き上げ、
大きな飛躍の6年とする

Ambitious

【高い志】

Innovative

【改革する意欲】

Challenging

【挑戦する心】

Ambitious, Innovative, Challenging は、これまでも“大同スピリット”を構成するものとして社内で展開してきたものですが、これを更なる高みに引き上げ、大きな飛躍の6年になろうという思いを込めております。

それぞれの最初の文字をつないだ「AICH」は、当社発祥の愛知県にちなむものです。

また、AIは愛であり、AI(人工知能)でもあります。

当社は、愛と人間の知恵に人工知能も加えて、一層の飛躍を図ってまいります。

第1の柱 既存事業の磨き上げ“真のトライボロジーリーダーへ”

- ・新規開拓活動、価格競争力・商品性能の向上、マーケティング施策等によるマーケットシェアの拡大
- ・稼働率・不良率・歩留りの改善による利益体質の強化
- ・IoT活用による生産の革新への取組。在庫の削減による利益体質の強化
- ・その他、生産・業務の効率化(業務改革推進室を中心としたBPR活動の実施)

具体的には？

- ・自動車エンジン用軸受。伸びる市場は中国、インドなど。
- ・顧客ターゲットは非日系の乗用車、トラック。非日系のターボメーター

第2の柱 新規事業の創出・育成“新たな事業の柱を築く”

- ・研究開発への投資拡大(ニーズ開発に加えて、シーズ開発に注力)
- ・「未来」創造室の設置による、新領域研究の企画・基礎実験の実施
- ・積極的なM&Aによる新事業領域進出の検討
- ・EV向けのアルミダイキャスト製品を当社のタイの子会社DMキャストイングテクノロジー(タイ)にて生産開始(2020年2月開始予定)
- ・海上・陸上の風力発電ニーズが高い欧州での、風力発電用特殊軸受生産を検討(試作品段階。2021年頃の現地生産を検討)
- ・株式会社飯野ホールディング、ATAキャストイングテクノロジージャパン株式会社とのシナジーの実現、カルム(アルミニウム吸音板)の拡販。

第3の柱 強固な基盤の確立“経営基盤の整備”

- ・グローバル品質保証体制の導入、グローバル最適生産・販売体制の再構築
- ・中国テクニカルセンター(TC)の開設。
これに伴いTCが日本、英国、ドイツ、チェコ、米国及び中国に設置されることによるグローバルな技術支援サービスの実現
- ・ドイツに欧州技術ユニット、R&Dセンターの設置(2023年予定)
- ・海外子会社を含めたグローバルガバナンス、グローバルコンプライアンス体制の強化・徹底
- ・グローバル人事制度の導入、ダイバーシティの推進による多様な人材の獲得

第4の柱 組織・コミュニケーションの活性化

- ・個の力を磨くとともに、コミュニケーションを活性化させ、個の力の総和を超える組織の力を生み出す
- ・企業風土の変革を行い、チャレンジ精神を後押しする仕組みづくり
- ・ワークライフバランスの深化

1.財務の健全性を確保しつつ、成長分野へは積極投資

- 1.収益力強化・キャッシュマネジメントによる有利子負債の削減
- 2.既存事業の競争力維持のため、**年100億円程度の投資を継続**
- 3.自動車用エンジン軸受関連の投資は、市場の縮小が急速に進む可能性に備え、計画期間後半の設備投資については慎重に対処
- 4.研究開発、新規事業、MA等については積極投資。**自己資本比率35%を目線に**財務の健全性を確保しつつ、必要なファイナンスを行う

2.健全な設備投資

- 1.投資効率改善のために、ハードルレートの見直しを行う
- 2.投資後の効果測定を厳格に行い、投資の精度を上げる

3.配当政策・企業価値向上

- 1.安定的な配当継続。
- 2.**ROE**を重視し、6年目で**10%**を目指す。

2019年3月期の通期の業績予想につきましては、
2018年5月11日に公表した予想値に変更はありません。

単位：百万円（百万円未満切捨て、比率は表示単位未満四捨五入）

通期 連結業績	【前期】 2018 年 3 月期 (実績)	【当期】 2019 年 3 月期 (予想)	増減額	増減率
売上高	106,648	107,000	+351	+0.3%
営業利益 (同利益率)	6,511 (6.1%)	6,700 (6.3%)	+188	+2.9%
経常利益 (同利益率)	6,708 (6.3%)	6,900 (6.4%)	+191	+2.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益 (同利益率)	3,281 (3.1%)	4,700 (4.4%)	+1,418	+43.2%

※当期想定為替レート：107 円 / 米ドル、125 円 / ユーロ
※業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

❖ 財務指標他

項目	2017 年度 (実績)	2020 年度 (計画)	2023 年度 (目標)
売上高(億円)	1,066	1,200	1,400
営業利益(億円)	65	100	140
営業利益率(%)	6.1	8.3	10.0
ROE(%)	6.9	9.5	10.0
設備投資(億円)	86	101	100
減価償却費(億円)	87	93	101
EBITDA(億円)	153	193	241
正社員女性比率*(%)	13.3	15.0	17.0
女性管理職比率*(%)	3.7	6.2	10.0

* 大同メタル工業株式会社 単体の指標

❖ グローバルマーケットシェア（暦年ベース。当社推定値）(%)

項目	2017 年 (実績)	2020 年 (目標)	2023 年 (目標)
自動車エンジン用半割	32.5	35.0	40.0
ターボチャージャー用(スモールターボ)	28.0	40.0	40.0
船用低速ディーゼルエンジン用	51.0	60.0	70.0
船用・産業用中高速ディーゼルエンジン用	15.0	16.0	20.0
ポリマー軸受	12.8	14.3	16.5
回転機械用軸受(発電用タービン等)	4.0	4.2	8.0

配当について

長期安定的な剰余金の配当水準を維持する方針から、当期の中間配当
につきましては、2018年5月11日公表の予想値どおり、「1株当たり15円」
とさせていただきます。

なお、当期の期末配当につきましては、予想値「1株15円」を据え置いて
おります。

	【前期】 2018 年 3 月期	【当期】 2019 年 3 月期
中間	15 円	15 円
期末	15 円	予定 15 円
年間配当	30 円	予定 30 円

自動車用エンジン軸受

■事業内容

自動車（乗用車・トラック・レーシングカー）エンジン用軸受、二輪エンジン用軸受、エンジン補機（ターボチャージャー・バルancer機構、インジェクションポンプ）用軸受など。

〈主な製品〉



▲半割メタル



▲スラストワッシャー



▲ターボチャージャー用
スラストベアリング

自動車用エンジン以外軸受

■事業内容

自動車部品（トランスミッション、ショックアブソーバー、空調用コンプレッサー、ステアリング等）用軸受など。

〈主な製品〉



▲ショックアブソーバー用
プッシュ



▲スターター用プッシュ



▲射出成型軸受

非自動車用軸受

■事業内容

船舶ディーゼルエンジン用軸受、発電（水車・タービン等）用軸受、産業用（コンプレッサー・増減速機等）軸受など。

〈主な製品〉

大型船舶用軸受



▲低速ディーゼル
エンジン用軸受

建設機械・ 中小型船舶用軸受



▲中高速ディーゼル
エンジン用軸受

発電用軸受



▲特殊軸受
（タービン用など）

一般産業用軸受



▲ドライベアリング

自動車用軸受以外部品

■事業内容

自動車用アルミダイカスト製品、曲げパイプ、ノックピン、NC切削品等

〈主な製品〉



▲切削加工品



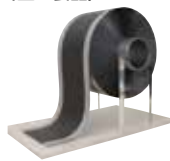
▲コンバーターケース

その他

■事業内容

電気二重層キャパシタ用電極シート、金属系無潤滑軸受、食品・飲料・化粧品等用のロータリーポンプ、工作機械用集中潤滑装置

〈主な製品〉



▲電気二重層キャパシタ用
電極シート

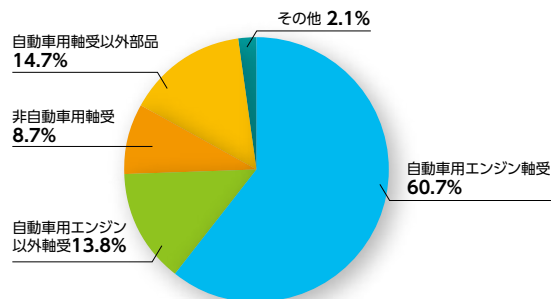


▲ロータリーポンプ



▲集中潤滑装置（MR-LUB）

売上高構成比（外部売上比率）



2019年3月期第2四半期累計

公募による 新株式発行・自己株式処分

募集株式数		7,705,000株	公募による新株式発行	1,558,400株
			公募による自己株式処分	5,141,600株
			第三者割当による新株式発行(OA) 1,005,000株	
募集総額		約 71.5 億円 (募集価格 928 円を基に算出)		
主要 日程	発行決議日	2018 年 8 月 22 日 (水)		
	受渡期日	2018 年 9 月 7 日 (金)		

■ 本調達の資金使途

合計

主に自動車用の軸受の生産能力拡大や効率化を目的とした国内の工場に係る設備投資	1,875 百万円
販売・生産管理の基幹システムの導入やデータ集約等の基盤構築のためのシステム投資等	932 百万円
自動車用エンジン部品等を販売する会社(欧州)の持分法適用関連会社化に伴う株式取得資金	820 百万円
電動化自動車に使用するアルミダイカスト製品の製造工場新設のための投融資資金	1,634 百万円
風力発電に係る風車の軸受を製造する新会社(欧州)の設立及び工場新設のための投融資資金	831 百万円
合計	6,092 百万円

成長資金の確保

■ 残額は借入金の返済資金に充当

自己資本比率を高め、財務の健全性を確保

財務基盤の強化

NPR of Europe GmbHの出資持分の 一部取得(持分法適用関連会社化)

当社は平成30年7月27日付にて、日本ピストンリング株式会社との間で同社の連結子会社であり、ドイツに拠点を有するNPR of Europe GmbH(以下「NOE」)に係る出資持分の30%を取得することを内容とする持分譲渡契約書を締結し、平成30年10月1日に取得が完了しました。

当社及び日本ピストンリング株式会社は、従前よりNOEを通じて欧州の自動車メーカーや自動車エンジンメーカーに対して当社の製品である自動車用エンジン軸受等の製品を販売するなど、欧州市場において協働をしておりますが、今回のNOEにおける資本提携を通じて日本ピストンリングとの協働関係を強化し、今後、両社のプレゼンスを更に高めるとともに、相互の事業基盤強化並びに企業価値向上に努めてまいります。

名証IR EXPO 2018 7月20日(金)21日(土) 吹上ホール

7月20日(金)および21日(土)に名古屋の吹上ホールにて開催された「名証IR EXPO2018」に本年も出展いたしました。

連日の猛暑にもかかわらず2日間でのべ8,300名の方が来場されました。

当社ブースは、本年度より「より多くの来場者の方に当社を知ってもらう」という戦略のもと、昨年度までの個別面談中心から、ミニ説明会を中心とする運営へ変更いたしました。

ミニ説明会にて当社に興味を持っていたいただき、個別で詳細な質問をしてくださる方も多く、製品について、業績について、中期経営計画や新規事業についてなど質問も多岐にわたりました。

個人投資家の方と実際に顔を合わせてご説明ができる貴重な機会を大切に、当社をより詳しく・正しく知っていただくよう、IR活動に努めてまいります。



連結貸借対照表

単位：百万円（百万円未満切捨て）

科 目		前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部	流動資産	71,823	80,857
	固定資産	89,207	84,820
	有形固定資産	64,947	62,617
	無形固定資産	15,085	13,012
	投資その他の資産	9,174	9,190
	資産合計	161,030	165,677
負債の部	流動負債	66,163	60,956
	固定負債	36,926	39,333
	負債合計	103,089	100,290
純資産の部	株主資本	49,336	57,692
	資本金	7,273	8,413
	資本剰余金	8,821	13,114
	利益剰余金	34,663	36,164
	自己株式	△ 1,422	△ 0
	その他の包括利益累計額	16	△ 763
	その他有価証券評価差額金	1,316	1,254
	為替換算調整勘定	557	△ 283
	退職給付に係る調整累計額	△ 1,857	△ 1,734
	非支配株主持分	8,588	8,458
	純資産合計	57,940	65,387
	負債純資産合計	161,030	165,677

連結損益計算書

単位：百万円（百万円未満切捨て）

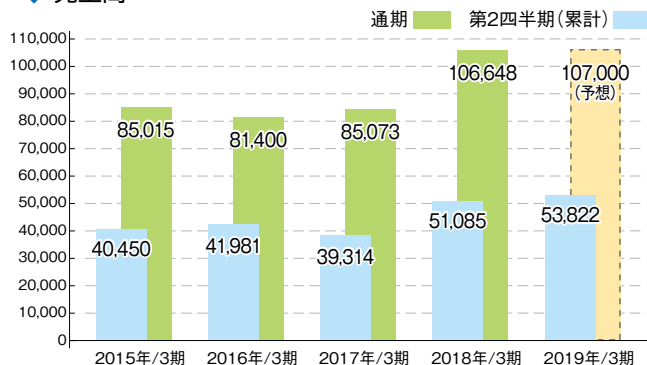
科 目	前第2四半期 連結累計期間 (2017年4月1日～2017年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2018年4月1日～2018年9月30日)
売上高	51,085	53,822
売上原価	38,211	40,108
売上総利益	12,874	13,714
販売費及び一般管理費	10,678	10,184
営業利益	2,195	3,529
営業外収益	639	711
営業外費用	582	700
経常利益	2,252	3,541
特別損失	135	-
税金等調整前四半期純利益	2,116	3,541
法人税、住民税及び事業税	805	1,089
法人税等調整額	198	0
非支配株主に帰属する 四半期純利益	354	353
親会社株主に帰属する 四半期純利益	757	2,098

連結キャッシュ・フロー計算書

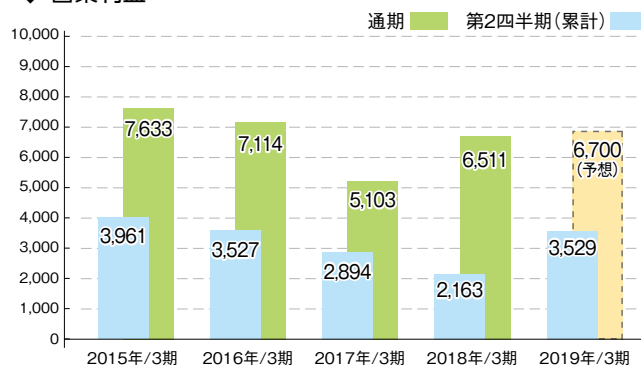
単位：百万円（百万円未満切捨て）

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (2017年4月1日～2017年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2018年4月1日～2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,461	4,791
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,899	△ 896
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,486	4,094
現金及び現金同等物に係る換算差額	144	△ 208
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 807	7,780
現金及び現金同等物の期首残高	12,827	11,866
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,019	19,646

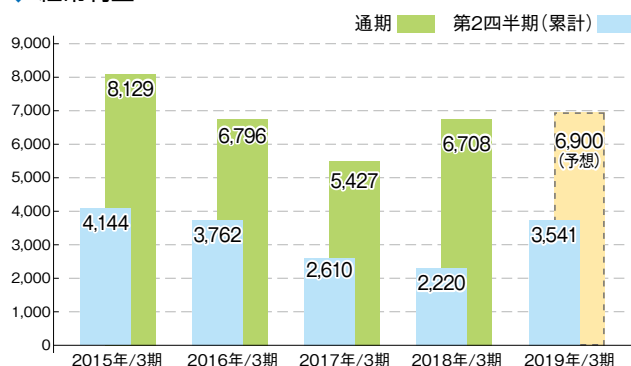
❖ 売上高



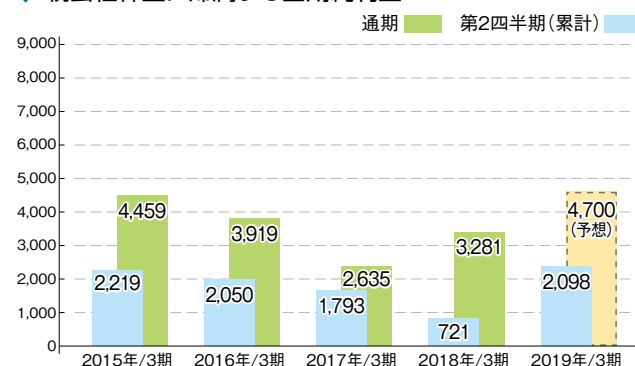
❖ 営業利益



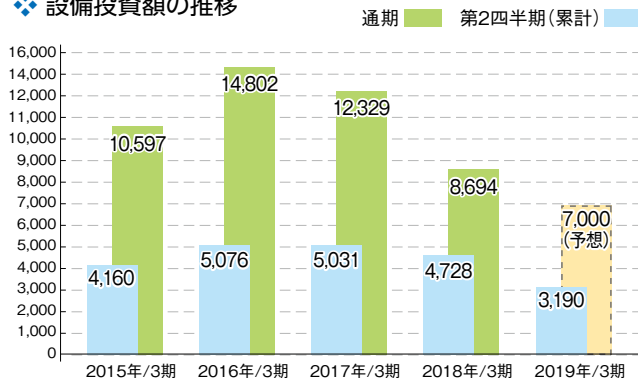
❖ 経常利益



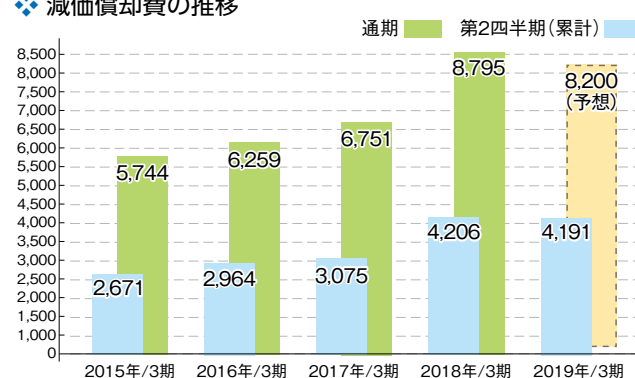
❖ 親会社株主に帰属する当期純利益



❖ 設備投資額の推移



❖ 減価償却費の推移



会社概要

(2018年9月30日現在)

設立	1939年(昭和14年)11月4日	
資本金	8,413百万円	
従業員数	連結 6,906名／個別 1,306名	
事業内容	●自動車用エンジン軸受 自動車(乗用車・トラック・レーシングカー)エンジン用軸受、二輪エンジン用軸受、エンジン補機(ターボチャージャー・バルancer機構)用軸受など ●自動車用エンジン以外軸受 自動車部品(トランスミッション、ショックアブソーバー、空調用コンプレッサー、ステアリング、インジェクションポンプ等)用軸受など ●非自動車用軸受 低速(2サイクル)ディーゼルエンジン用軸受、中高速(4サイクル)ディーゼルエンジン用軸受、発電(水車・タービン等)用軸受、産業用(コンプレッサー・増減速機等)軸受など ●自動車用軸受以外部品 自動車用エンジンやトランスミッション周辺の高精度・高品質部品(曲げパイプ、ノックピン、NC切削品等)、自動車用アルミダイカスト製品など ●その他 電気二重層キャパシタ用電極シート事業、金属系無潤滑軸受事業、ポンプ関連製品事業、不動産賃貸事業など	
本社	名古屋本社 〒460-0008	名古屋市中区栄二丁目3番1号 名古屋広小路ビルディング 13階
	東京本社 〒140-0002	東京都品川区東品川二丁目2番24号 天王洲セントラルタワー17階
国内生産拠点	犬山工場(犬山事業所内) 前原工場(犬山事業所内) バイメタル製造所(犬山事業所内) 岐阜工場 TMBS工場(犬山事業所内) TMBS = Turbomachinery Bearing Systems (回転機械用軸受)	
国内販売拠点	東京支店、名古屋支店、大阪支店、北関東営業所、浜松営業所、広島営業所、九州営業所	
関係会社	●国内 大同ブレンベアリング株式会社、エヌデーシー株式会社、大同インダストリアルベアリングジャパン株式会社、大同メタル佐賀株式会社、大同メタル販売株式会社、エヌデーシー販売株式会社、大同ロジテック株式会社、株式会社アジアケルメット製作所、株式会社飯野製作所、ATAキャスティングテクノロジージャパン株式会社 ●海外(主な拠点) 【アジア】 中原大同股份有限公司(台湾) PT.大同メタルインドネシア(インドネシア) 同晟金属株式会社(韓国) BBL大同プライベートLTD.(インド) ダイナメタルCO.,LTD.(タイ) 韓国ドライベアリング株式会社(韓国) フィリピン飯野Corp(フィリピン) PT.飯野インドネシア(インドネシア) ATAキャスティングテクノロジークー.,LTD.(タイ) DMキャスティングテクノロジークー(タイ)CO.,LTD.(タイ) 【中国】 大同精密金属(蘇州)有限公司(中国) 飯野(佛山)科技有限公司(中国) 広州原同貿易有限公司 【ヨーロッパ】 大同インダストリアルベアリングヨーロッパLTD.(イギリス) 大同メタルコントロールAD(モンテネグロ) 大同メタルチエコs.r.o.(チェコ) 大同メタルヨーロッパGmbH(ドイツ) 大同メタルヨーロッパLTD.(イギリス) 大同メタルロシアLLC(ロシア) 【北米】 大同メタルU.S.A.INC.(米国) 大同メタルメキシコS.A.DE C.V.(メキシコ) 大同メタルメキシコ販売S.A.DE C.V.(メキシコ) ISSアメリカINC.(アメリカ) ISSメキシコマニファクチャリングS.A.DE C.V.(メキシコ)	

役員

(2018年9月30日現在)

【取締役及び監査役】

代表取締役会長 兼最高経営責任者	判 治 誠 吾
代表取締役社長 兼最高執行責任者	檜 山 恒 太 郎
取締役 兼専務執行役員	佐 々 木 利 行
取締役 兼専務執行役員	井 川 雅 樹
☆ 取締役	武 井 敏 一
☆ 取締役	星 長 清 隆
常 勤 監 査 役	玉 谷 昌 明
☆ 監 査 役	田 辺 邦 子
☆ 監 査 役	松 田 和 雄

【注】 ☆印は会社法に定める社外取締役及び社外監査役であります。

【執行役員】

常 務 執 行 役 員	岡 戸 篤
常 務 執 行 役 員	小 暮 圭 一
常 務 執 行 役 員	吉 田 秀 雄
常 務 執 行 役 員	佐 藤 善 昭
常 務 執 行 役 員	三 代 元 之
上 席 執 行 役 員	宮 脇 敏 之
上 席 執 行 役 員	鬼 頭 幸 裕
上 席 執 行 役 員	浅 井 眞 吾
執 行 役 員	古 川 智 充
執 行 役 員	平 松 伸 隆
執 行 役 員	吉 田 有 宏
執 行 役 員	墓 越 繁 昌
執 行 役 員	正 田 健 二
執 行 役 員	小 島 尚 誠
執 行 役 員	川 瀬 誠

株式事項 (2018年9月30日現在)

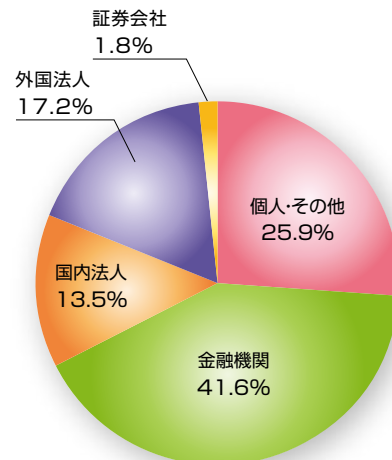
❖ 株式の状況

発行可能株式総数 80,000,000 株
 発行済株式の総数 47,520,253 株 (自己株式 189 株を含む)
 株 主 数 7,528 名

❖ 大株主

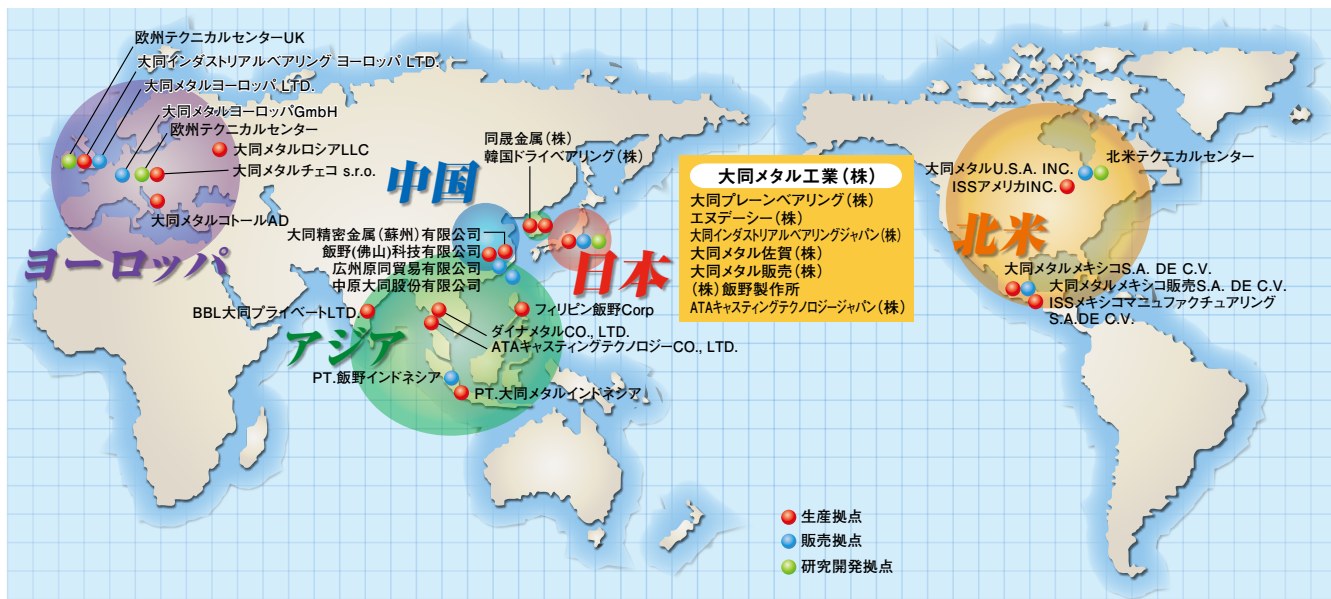
株 主 名	持株数 (千株)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,504
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,965
三井住友信託銀行株式会社	1,978
株式会社みずほ銀行	1,977
株式会社三菱 UFJ銀行	1,822
大同メタル友栄会持株会	1,339
東京海上日動火災保険株式会社	1,129
ザ セリ ワタナ インダストリー カンパニー リミテッド 703000	1,000
ジューピー モルガン バンク ルクセンブルグ エスエイ 380578	990
日新製鋼株式会社	909

❖ 所有者別株式保有状況



グローバルネットワーク (主な拠点)

(2018年9月30日現在)



事業年度	毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで	株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 1 号 三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年 6 月		
基準日	定時株主総会：毎年 3 月 31 日 期 末 配 当：毎年 3 月 31 日 中 間 配 当：毎年 9 月 30 日	特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 1 号 三井住友信託銀行株式会社
単元株式数	100 株	郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目 8 番 4 号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の 本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告の方法により、当社のホームページ (http://www.daidometal.com/) に掲載 します。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告をすることができない場合は、日本経 済新聞に掲載します。		
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部、名古屋証券取引所市場第一部		

株式に関する諸手続のご案内

住所変更、単元未満株式の買取等 お申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

復興特別所得税について

2013年1月1日から2037年12月31日までの間(25年間)は、「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」が施行されており、「復興特別所得税」として0.315%(所得税額に対して2.1%)が併せて課税されています。

「配当金計算書」について

配当金お支払の際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行なわれます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

なお、「配当金領収証」にて配当金をお受取りの株主様につきましては、配当金のお支払の都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

三井住友信託銀行株式会社

1 株式事務に関するご質問 (フリーダイヤル)
0120-782-031 [受付時間：平日 9:00 ~ 17:00]

2 インターネットによる株式に関する諸手続のご案内
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

大同メタル工業株式会社



<http://www.daidometal.com/>



環境に配慮した
「植物油インキ」を
使用しています。



適切に管理された森林で
生産されたことを示す「FSC®」
認証紙を使用しています。